

平成 22 年度 事業計画

<平成 22 年度の活動指針>

- ①学術面では、学術討論集会として第 49 回年会（高橋 実行委員長，函館市）を 9 月 15 日－17 日に予定している。その他、時代の進展に即した企画で、専門部会・支部によるセミナー・講演会等を実施する。新しい試みとしては、政権交代後の時代（新しい行政）を考えるセミナー等の企画を行う。
- ②学会誌：JOS は昨年度、完全に英文誌に移行したが、今後も国際誌としての位置づけを守り、わが国だけでなく国際社会に貢献できるように務める。会誌「オレオサイエンス」は会員間の情報交換に重点を置くことで、今後一層利用の高まる HP（ホームページ）との役割分担をする。HP は本会活動（ニュース）の速報的役割を持たせる。
- ③60 周年記念出版：「油脂・脂質・界面活性剤データブック（丸善）」の編集（2012 年 発行予定）を行う。
- ④国際学会：2011 年に予定している「World Congress on Oleo Science & 29th ISF Congress (WCOS)」の準備を行う。
- ⑤地域における社会貢献：油脂工業会館と共催する市民講座を実施する。
- ⑥公益社団法人への移行：本年度中の実施を予定しており、円滑な認可・移行に努める。

1 会務

1.1 総会

第 56 回通常総会を平成 22 年 3 月 31 日、油脂工業会館で開催する。平成 21 年度事業報告および収支報告、平成 22 年度事業計画案、収支予算案、公益社団法人移行認定取得に関する件および定款変更について審議し、平成 22 年度役員を選任等を行う。通常総会終了後、総会報告会を開催し、通常総会および新名誉会員の推戴について報告する。さらに功績賞、平成 21 年度日本油化学会学会賞、進歩賞および女性科学者奨励賞の各賞の選考結果報告と表彰を行う。その後、講演会ならびに懇親会を開催する。

1.2 理事会

平成 22 年度理事会の開催予定は 5 回。平成 22 年度会長、副会長、常務理事の選任、運営委員長、各業務委員長および支部長等の選任、諸事業計画の企画・実行、平成 22 年度収支決算案および平成 23 年度収支予算案等、重要案件について審議し、決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定は 6 回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、公益社団法人認定の申請・取得をサポートし、会員に公益社団法人化について周知させる。さらに、会員の表彰に関する見直しや、ホームページの充実についても継続的に検討する。

2 事業計画案

2.1 本部事業

第 11 回を迎えるフレッシュマンセミナーは、5 月には『油脂と脂質』について、6 月には『界面科学と界面活性剤』についてそれぞれ開催し、日本油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。11 月には第 8 回界面活性剤評価・試験法セミナー、12 月には第 10 回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の定着を図る。

2.2 支部活動

各支部による講演会・セミナー等は、例年に倣い開催するが、支部の特徴を生かす工夫を行う。また支部活動の一環である地区講演会（油脂工業会館共催）は佐賀市（関西支部）、米沢市（関東支部）、各務原市（東海支部）および徳島市（関西支部）の 4 ヶ所で開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に展開したい。

2.3 専門部会活動

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会に昨年発足した食品油脂機能構造部会を加えた 7 部会体制で展開する。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー等の充実と定着化を図る。油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性を意識し部会活動の活性化を図り、本会活動基盤の強化に努める。

2.4 会誌

論文誌「Journal of Oleo Science (JOS)」と会員誌「オレオサイエンス」を各 12 号発行する。「JOS」は Preface 等の記事等を通じ、国内外研究者からの積極的な原著論文投稿を募る。また、国際誌としてのインパクトファクター値および知名度向上に努める。「オレオサイエンス」は、「ナノ DDS」や「脂肪と肥満」の中特集などの特集企画 9 件および総説 3 件を各号へ掲載し、文献抄録、Q&A など会員への情報提供の充実、投稿規定の見直しや会員・編集委員の参画を推進するなど、魅力ある会誌づくりに努める。

2.5 日本油化学会年会

平成 22 年度第 49 回年会は、高橋是太郎実行委員長（北海道大学大学院水産科学研究院）のもと、北海道大学函館キャンパスにおいて、9 月 15 日（水）－17 日（金）に開催する。受賞講演、一般発表（口頭およびポスター）、専門部会主催のランチョンシンポジウム、スポーツ大会の他、「バイオテクノロジー及び機能性脂質」に係る日台ジョイントシンポジウムを行う。台湾側の演者に国立中興大学の Jei-Fu Shaw 学長及び Y.-S. Huang 教授、日本側の演者に佐賀大学の柳田晃良教授及び京都大学の小川順教授を予定している。また、“Biotechnology for Oil and Fat: Current status and future prospect”と題した USDA（アメリカ合衆国連邦農務省）の Ching T. Hou 博士（AOCS 及びアメリカ微生物学会フェロー）による特別講演も予定している。